

# 大野木グラウンドワークだより

平成 21 年 3 月 11 日 発行 NO 30 発行責任者 藤田 博、伊藤 晋

3 月 8 日（日）くもり、少し肌寒い 3 月は法事、行事が目白押し よって参加者も 15 名と少なめ。

作業は観察デッキの完成に集中することに、

長浜から強い助っ人廣部さんがおくさんの由美さん翔ちゃんと大ちゃんを連れて参加してくれました。若い人のパワーをもらって一同元気付けられがんばることに。

翔ちゃんが「おっちゃん、パパとママとぼくはかっこいいよ」と、やさしいアイドルがクワを持ってコンコンと花植えのお手伝いもしてくれました。

10 時の休憩から太陽が差し込み、風もなく春の暖かさの中なごやかな一時を

観察デッキの一段目、二段目が勾配調整、細工しながら取り付けられて完成までもう少しとなり、後は竹すべりの安全柵と階段てすりを残すのみとなりました。

お昼は久しぶりのカレーライス、公園第一号採れたてのしいたげがからしがよく効いたヌタにはいって、「からくて美味しい」と結構うれていました。

おいしい「きんぴらごぼう」「黒豆」「白菜あげかすのごま油いため」が新メニューとしてデビュー。

今年の雪の少なさが何に影響するのか、ザゼンソウの情報などなど

すると、晋さんの手の状況を廣部さんが腕からもみほぐし、中嶋さんの右腕も肩からもみほぐし好評につきおもわず「申し込み順に並んでくださいよ」と言ってしまいました。

廣部さんの治療に今後期待し、長浜まで通院してみてください。自宅往診も OK のようです。

午後も 3~4 人の人ががんばってくれました。ありがとうございました。

## 経過報告

### 2月14日(土)

東近江市 建部地区まちづくり協議会 ご一行19名が大野木グラウンドワークの視察にられました。公民館で概要をパワーポイントで説明いたしましたところ、いくつかのご質問をうけました。

やはり昼食をどのように、女性陣の対応、その賄い費用等々に関心が集まっておりました。また、グリーンツーリズムへの動き、会員動向、モチベーションの持ち方等にもいろいろなご質問を受け、協議会に参加されておられる立場なりもおありでしょうが、真剣なやりとりから相当な活きこみを感じました。

それにしても、わが女性陣の甘酒、手作り団子の接待、ティッシュ入れ布袋のお土産に大満足されておられました。

さらに現場に赴き炭窯、観察デッキ、ブランコ、森と竹林をご覧になり幾つかの質問を受け、皆さんと記念写真をとってお別れしました。

一行はグリーンパークの盆梅に向かわれることに、バスに向かって私たち大きく手を振ってお別れいたしました。

### 2月21日(土)

炭窯天井打ち、北澤、吉田稔、前川、小澤、伊藤、樋口、藤田、中嶋、吉田善の各氏9名が参加いただき、寒風なれどもり時々晴れのなか木詰め、チェーンソーでの切り揃え、隙間の打ち込み休憩時にはようかん、コーヒーをいただきました。

女性陣は紀美子さん、幸子さん、八重子さん、佳子さん、スミコさん、光子さんの6人。

隙間をさらに木片で打ち込み、樗のしばを一面に置きその上にムシロを重ねて目安として水平木にくぎを打ちサイドから赤土に石灰を混ぜた土を叩き込んでいく。

土をこねる人、運ぶ人、打つ人、打つ人は4人で窯の中央に座って外に向かって槌音がパンパンと小屋の中に響いています。

天気はこの一週間荒れていたが、今日はまたまた恵まれ10時過ぎには晴れてきました。

休憩後の進捗はすごく、たたきの音高く午前中に天井の土が相当乗ってきました。

お昼には智くんが「おいしくな一れ」「できた!」と元気に八重子おばあちゃんのお手伝いをしてくれていました。炊き込みご飯に公園に芽を出していたフキノトウがてんぷらメニューに、やはり旬のものおいしいですね。今日は番外編ですが、女性陣が急きょ食事を準備してくれました。それから女性陣が現場を訪問、天井をポンポンと軽やかに叩いてくれて、それでますますやる気満々午後もがんばり15時30分をもって天井は打ち上げとなりました。

炭窯は実に延べ10日間74人手間をもって完成に至りました。

## 2月27日(金) 9時

火入れ式です。朝 9 時集合、小雨。少し化粧直し、メンバーは愛代さん、紀美子さん、スミコさん、佳子さん、幸子さん、光子さんに藤田、小澤、吉田、水野、伊藤、中嶋、北澤各氏の 13 人。天井の化粧直しと焚き口のレンガ積み、土込めとやはり若干の作業は必要となりました。

またまた天候は晴れてきました。カーンカーンと天井仕上げに中嶋さんが平板で最後の仕上げを、女性陣はファイヤーサークル周辺の草取り、落ち葉さらいと清掃に

誰かが「帰命無量寿如来・・・と口ずさみかけ、「いや伊勢音頭でやってくれ」と

10 時前に焚き口に火入れです。窯全体に武さんにお神酒を注いでいただき、四隅に水野さんが塩をまいていただき、一同お神酒で乾杯をいたしました。

煙突から煙が出て完成セレモニーは無事終了となりました。

きょうは一日焚き口からの煙でまず窯の乾燥を行い、本格火入れは 3 月 3 日ひなまつりに決定。

## 3月3日(火)

本格火入れ。9 時前から三々五々集まりましたが、既に窯に火はあり実は武さんは 7 時から焚きき出したとのこと。ひなまつりですが女性 5 人が花壇を整理にまず清掃、ふき、チューリップ、水仙、冬知らず、カスミソウ、ほとぎす、紅葉と多彩な植え込みをしてくれました。メンバーは佳子、紀美子、スミコ、幸子、光子の皆さん。男性は北澤さんをチーフに中嶋、吉田善、伊藤、小澤、藤田、樋口の面々です。

午後は交替で見回り焚口を取り除きレンガ積みですぼめて、練り土で締め切り下段にレンガ 2 個分の空気穴で一昼夜焚くことに。

「今夜は大野木中がエガライやろ」とのこと。のどがおかしい家に帰って風呂に入ってもまだえがらい、これは相当強いものです。

翌日 4 日朝 8 時煙突からはすごい勢いで煙が噴出している。煙突上の小枝と煙突の継ぎ目から真っ黒なタールが流れ落ちている。「明るいうちに止められるやろ」との武さんの見込みでしたが、4 日夕刻までの止めにはいたらず。

翌々日 5 日朝どんどん出ている煙の色はまだ変わりません。それでさらに一日 5 日夕刻になって煙が空色になってきました。16 時 52 分焚き口、煙突ともに練り土で封印。

実に火入れから 60 時間を経過いたしました。

3 日朝から 5 日までメンバーが入れ替わり立ち代りほとんど絶え間なく現場チェックに、他地域からも見学者あり窯談義が続いてうれしい夢もこやしもたくさんにいただきました。

## 会員寄稿

前期高齢者の仲間入りをして、この頃に思う事としてアメリカの金融危機に端を発して世界中に広まった経済不安で、日本も例外にもれず雇用不安で国民総大騒ぎの今日です。

二月の下旬になって私の首筋にも冷たい風を感じ始めました。私一代のスパンでものを見渡した時、正反対の力が働く世の中であることが良く分かりました。心をざわめかすまいと自分を慰めているところです。

この私の心のふるさとを今探りに行くとき、そこに一人の年老いた男の人が蘇って来ます。その状況は、五十年程昔の田園風景です。幾何学模様に広がった故里の田んぼに、春先から始まった農作業での一場面、一ほり一ほり跳ね上げられた田んぼは、次に田こなしに入り、しるふみとなる時、植え付けの苗が短いので出来るだけ水平を保つように労力を注ぐ。今日のように機械力の一つも無く、全部手作業で行なわれていた。その人は外に手を借りる人が無く、何時も一人でただ只管に鍬を動かしてどうしてでした。そんな折高低を均す為筵を半分に折ってその端に縄を結び肩で引ける様にしてその上に鍬で土の塊を三個ほど乗せ、四~五mほど行っては休み一息入れて又引っ張る。朝から晩までその作業が数日続く。苗の生育や時期の加減でそこそこに切り上げ田植へと季節は移っていく。

山から湧き出した水のみで、総ての田んぼの水管理をしなければならず、夜もゆっくり休まずに只管稲の生育を望んで居られた事でしょう。

秋には曲がった腰を更に曲げ、稲刈りが始まる。天気の良い朝は、四時半にはもう刈り始めなければ仕事が捗らない位一人の仕事量はしれたものです。人力で脱穀された初は三十キロ弱のカマスに入れて荷車のある道まで背負って運び出します。四つほどカマスの乗った荷車を坂の多い家まで運ぶ。途中からお家の人が先引きされてやれやれ。途中何回くらい一服されてことか。家の坂は一段と急でその手前で又一服。丁度その時私は何度となくその苦労に心が痛み一緒に荷車を押し上げる手伝いをしました。毎年毎年その繰り返しを、一言の愚痴もなく一生懸命、一代続けて居られました。旅行を楽しむ時代でもなく、おいしいものを食べる事も無く、ひたむきにその時代を生きる方でした。

そうした皆さんのお陰で、私たちは右肩上がりの豊かな時期を生きる幸せに恵まれました。それが長続きせず、現代を見渡しますと顕著に現われた現象がニートとかフリーターと呼ばれています。私がこの時代に生れたならば、同じ悩みを抱えた人生でしょう。

この悩みと昔の人の苦労を思うとき、比較することは的外れな事かも知れませんが、昔の人の苦労は、隣の人との助け合いや労わりや痛みを共有する事があったと思います。今日では親も手を差し伸べられず、個人的に囲いや壁を作って一人で生きられる感じかも知れません。

それが一転して、アメリカの金融危機で世界中が不況に陥り、今までは最もな事と思われていたことが一瞬にして崩壊し、誰彼なく皆んな輝く一つの星として、自分の光を発しながら、何ヶ所にも結び目のある網のように手を取り合って明るく日々を送りたいものをお願いながら、私の心の故里を訪ねてみました。 匿名

## 私と智くん（智之）

2月21日グラウンドワークに智くんも参加させていただきました。智くんも2歳と5ヶ月になり、歩きもしっかりしてきました。言葉はまだ片ごとですが、よくお話ができるようになりました。この日は炭焼き窯の最終工程で天井部分の仕上げ作業で、赤土と石灰を混ぜ叩き固める大変な作業です。そのため婦人部は昼食に力をいれる大忙しどきの、見て、自分もする、やらせてと、テーブルにおかずとご飯などを運びます。ご飯と味噌汁の位置が違うと、はんたい、はんたいと言って直します。光子さんがお茶碗によそった炊き込みご飯にエンドウ豆をスプーンで入れているのを見て、自分もやると言い出して手を出すので、光子さんにじゃあ智くんが入れてとスプーンを渡してもらうと、スプーンでボールのエンドウ豆をすくって茶碗に入れてゆく、こぼすことなく、慎重にエンドウ豆を茶碗に入れていった。智くんは今なんでも自分でやりたい時期なのでしょう。智くんがグラウンドワークのお手伝いが出来た初めての日となりました。

智くんが何でも自分でやると言い出したきっかけは、智くんの二歳の誕生日にアンパンマンの丸い大きなテーブルと椅子のセットを買いました。大変気に入ってテーブルの上に自動車や絵本をのせて、椅子に腰掛け遊ぶのが日課となりました。ある時、智くんおばあちゃん洗濯物を取りにベランダに行きますからおとなしく遊んでいてね、どうですか。

声を掛けてから洗濯物を取り入れに行き、もどって洗濯物を下ろした時、洗濯物に乗ってきた口になにかを食べている。食べ物は出していませんから智くん何を食べているのかな、おばあちゃんにお口を見せてと言って口を見たら「おいちい」「たべた」「のり」と口を見せた。智くん何処に味付け海苔があったのかな、おばあちゃんに教えてくださいと言えば、智くんはアンパンマンの椅子を食器棚の所に持って行き、椅子に乗り扉を開け海苔の容器を取り、蓋を開け海苔を1枚口にくわえて蓋をして容器を元に戻して、扉を閉め椅子をテーブルに戻した。私はビックリした、これだけのことが出来るとは思っていなかった。

私は智くんを抱き、智くんは何でも自分で出来るのだ、でもね椅子を使うのはおばあちゃんと居るときだけにしようね。「イチャー」になるのはいやでしょう。

それから何でも自分でやりたがります。しかし私のすることをジーと見てから言います、でも出来ないときは私を呼びますので、「智くん頑張れ」「智くん頑張れ」と声を掛けますと、いろいろ勘考します。できると智くんを抱き上げ、「できた」「できた」智くんは頑張りがやさんです。智くんはアンパンマンの椅子を上手に使います、でも困ったことがあります。智くんの好きな物がある冷蔵庫の扉も椅子を使い自由に開けられるからです。

子供は日に日に成長します、毎日毎日が疎かにできない、気づかないとその芽を踏んでしまうような気がします。子育ては大変です……。

4月から保育園に入園します。

小澤八重子

## おまねき会と聞きたいことの二部構成

カメラと脚立を用意している人、大きな座布団を持ち込んで場所を用意している人、これらは孫たちの歌、遊び、劇の発表会に集まった祖父母たちである。ちよこちよこと廊下の入り口からのぞきに来る子が何とも可愛いしぐさをみせてくれる。出しものは「ポンポン春が来た」「みんなであそぼ」「ピーマンとなかよしやさいっこ」「動物村へレッツゴー」「はらぺこあおむし」「28ぴきのねこ」「みんなともだち」である。9時半近くになると遊戯室は一杯の人となり若い祖父母、なかには母親らしい人も、みんなてんでにガヤガヤとやかましい。若い人のなかにはおしゃべりの得意な、また、それが楽しみな人が多いと思うが、年を重ねても分別のない単におしゃべりのかたまりみたいなのもいるみたいである。その証拠に園長先生のお話が始まってもがやがや話をやめない小集団がある。と、いきなり孫たちが入ってくるなり合奏が始まった。カスタネット、タンバリン、太鼓、木琴、ピアニカ、トライアングルを保母さんが振りかざす手の方向に合わせて見事な音域をかもし出し会場の婆あたちもステージに注目。

\*「いらっしゃい！」飛び切りの大きな声で迎え入れるラーメン屋さん、客は「ねぎ大目、背油小、麺固め、そして・・・」などと細かく注文している。聞いた店員は一声「かた・・・」というだけ。さっきの注文にはうなずいただけかい。店員さんの一声で客の細かな注文は通じたのかい、一度聞いてみたいものだ。

休憩というか場面展開のために保母さんがバタバタしている。すると会場内はまたまたおしゃべりの花、もううるさいくらい。つぎは、「おいでおいで」ハイハイで帽子をかぶってまだ歩けない子たちが9人ほど出てきた。「どこです、どこです、はらポンポン」の歌に合わせての所作には会場一同笑い声と拍手、ハイハイとヨチヨチ歩きの孫たちの動き、表情には癒されますね。

グルグルドカーンではあちこちでバラバラいろんな表情を見せてくれる。3歳児のやさいこたち最初はかたまっていました、保母さんのリードでだんだん調子が出てきた。元気すぎる子、おとなしい子、マイペースの子、考え込んでいる子、「パパがいいー」と保母さんに抱かれて泣いている子、でもどんどん歌劇は進んでいきます。こうなると泣き声とピアノと歌との狂想曲である。

\*荒ぶる琵琶湖に浮いている水鳥たち、多くは鴨だが見ていると波間に消えたり、見えたり相当の激しい上下、そして強い風にどんな対応をしているのかしら、どんどん岸に押し

流され数羽の鴨は岩か何かにぶつかる寸前に飛び立ち沖に向かっていく。ということは岸に押し流されるままに眠りながら漂っているのか。そのセンサーは何でどのようなメカなのか。一度かつて息子が夢中だったドリトル先生にでも鳥語で聞いてもらったら、と、ふと考えたら信号は青になった。

#### 一歳児

名前を呼ばれるとハイと大きな声、手だけ上げてる人、帽子のひもをくわえてる人、指をしゃぶっている人、いろいろである。

お遊戯している人、あくびをしている人、後ろを向いている人、椅子からおりてジャンプしている人、

#### 三歳児

劇「あおむし」歌で表現、あおむし行進、これが実に見事で大股でどっすんどっすんと進んでいく。食べても食べてもお腹はペコペコ～せりふが歌で～オペラである。

ストーリーに乗れない子、遅れて舞台に残ってしまった子もいるが、あおむし行進は「がにまた」で一生懸命。さいごに全員おおきな布の中に入ってしまったてボルテージがあがると中からたくさんの蝶々が出てきました。

#### 四歳児

「28ぴきのねこ」歌もおどりも揃っていて、さすが4月からの年長組である。なかには会場に手を振りながら演技している余裕の子も。

声を大きく自信ありあり、せりふの「ゴロゴロしていても強くなれないよ」まさにそのとおり、世の中、自分の都合ばかり言ってゴロゴロしている人の何と多いことか。元気な歌の合唱で盛り上がりました。

#### あお組

さすが年長組、劇、歌ともにまとまっている。卒園の発表会ですね。表情も豊か、せりふ、歌、動き、流れも円滑である。

このクラスは保母さんも子たちに任せきり、食事会は孫たちがそれぞれの祖父母の席に来て～楽しいおまねき会でした。

\* どうして地域を乱すことをなさるのか。どうして人の足を引っ張るのか。がんばる人たちの応援こそ大事であり、次代への役割、地域貢献の模範を示してくださっている方々の背中から学ぶことはたくさんあります。

が、依然としておかしい行動をとられる方もあり、何故「・・・」なの、それはあなたと地域にとってどういうことなのか。しかと聞きたいものです。

藤田 博



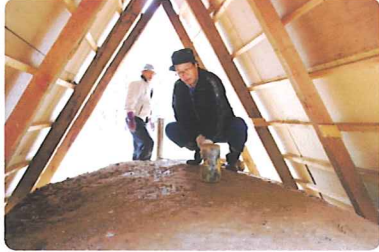
# 大野木グラウンドワークだより

NO30

2009年3月8日（日） 晴れ



2月21日に炭窯の中に生木を入れて、柴木を並べる・ムシロを敷き、赤土を叩いて天井を作りました。



マスコットさん登場



小澤さんの孫 智之君がきてくれたよ。



2/21の食事風景

2/21午後叩いて夕方までに天井が完成しました。



炭窯作りお疲れ様でした



2/27 火入れ点灯式を行う。

2月27日 良い炭が焼ける様に炭窯にお神酒を奉げ無事を祈りました。



3月3日朝7時、念願の炭焼きが始まりました



女性軍は花壇作りをしてくれました。



夕方に焚口を小さくして火力を調整。



森の中に焚突から久し振り煙が漂いました。炭出しが楽しみです。



3月8日は観察デッキの階段作りをしました。



継続は力なり



3/8食事風景



午後・完成真近の階段を背にして記念撮影



純白で清楚なミヤマカタバミが開花しました 未完成のまま日没終了



次回は4月5日（日） 桜満開中につき午後、花見になるかも？ 次回の参加ヨロシク